

以下、本文-----

A 病院における心不全患者の再入院に影響した要因と再入院予防に向けたケアの検討 —救命救急センターに緊急入院した事例を分析して—に関する研究

1. 研究の対象

2020年4月～2023年4月にA病院救命救急センターに心不全の診断で入院された方

2. 研究目的・方法

心不全の経過は進行性で急性増悪と軽快を繰り返す特性があり、心不全の再燃による再入院は身体機能の低下をもたらし、予後に影響を及ぼすと言われています。そのため、心不全症状の増悪と再入院予防は重要な課題となっています。

再入院の要因については国内外で多数調査・研究が行われており、感染や不整脈、心筋虚血などの医学的な要因の他、水分・塩分過多、過労や精神的ストレスなどの生活要因など、多岐にわたるとすでに報告されていますが、地域性や各医療機関によって再入院予防に向けた取り組みが異なるため、地域特性に合わせた増悪要因や支援の検討が必要であると考えられています。そこで今回、A病院が担う医療圏の特性に合わせた心不全患者さんの再入院予防のあり方を検討するために、A病院における心不全患者さんの再入院に影響した要因を診療録や看護記録などから後ろ向きに調査し、必要な支援のあり方を検討することとしました。本研究により再入院の要因の特徴と必要とされる支援のあり方が検討できれば、再入院予防に向けたより良い療養支援の実現につながると考えています。

研究期間は2023年6月から2025年3月までです

3. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢、性別、既往歴、再入院の原因、BMI、日常生活動作、介護度、居住市、同居家族や主介護者の有無、検査データ（左室駆出率、BUN、Cre、Hb、Albなど）、医師や看護師、栄養士など専門職より受けられた退院に向けた療養生活支援の内容などです。個人を特定するような名前及び市町村名、カルテ番号、生年月日等は一切用いません。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

住 所：〒507-8522 岐阜県多治見市前畑町 5-161

電話番号：0572-22-5311

研究責任者：地方独立行政法人岐阜県立多治見病院 看護部 川村知子

共同研究者：地方独立行政法人岐阜県立多治見病院 看護部 大上晃正 石橋津喜子

-----以上